

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催を予定していた日時・場所

日時	令和 4年 8月19日13時30分 ~ 14時	場所	医師会館理事長室(オンラインと併用)
----	-------------------------	----	--------------------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	中川連合町内会 会長
井澤 一成	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (オンライン参加)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子 (欠)	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
松信 哲朗 (オンライン参加)	当該サービスに知見を有する者	仲町台駅前まつのぶクリニック 院長
澤野 直美 (オンライン参加)	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
●● ●●	利用者又は利用者の家族	
深澤 立	法人代表	
吉井 涼子	管理者	
宮島 佳代 (欠)	看護主任	
石濱 千秋	計画作成者	
青柳 かおる	副管理者	
朝比奈 ゆかり	介護主任	
後藤 瑞佳	事務	
加藤 萌子	事務	

4. 活動状況報告

別紙(様式2～4)のとおり

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

・事例報告を聞いて、3か月という短期間利用ではあったが、看多機の役割が良く分かった。
・過去から変わらず努力されていると思う。町内会はコロナ感染拡大はあるが、国は行動制限はしないと言っているの
で、その方針で動いている。ここも今回は、集合とオンラインという形をとって、開催してもらった。今後も、一緒に活動の
協力をお互いしていきたい。
・本日、参加させてもらい、良かった。活動内容がよく分かった。うちも母親が利用させてもらい、いつも感謝している。他
のデイサービ
スに以前通っていたが、人見知りするし、馴染めなかったが、ここでは職員と仲が良いようだ。率直な意見です。
・コロナ禍において、変わらずに通常の業務を継続していることは、有難い。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

・特になし

7. 地域からの情報提供

・9月に中川連合町内会で地域の懇談会を今年はやることになった。
・連合町内会の中では、今年の夏祭りは、中止したところ、開催したところが半々だった

8. その他特記事項

特になし

※ 会議は原則事業所内で行ってください。
やむを得ず他の場所で開催する場合、必要に応じて事業所内の見学を行ってください。

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況 令和 4年 7月

登録者数(7月 31日現在)	女性 11名	男性 8名	計 19名
-----------------	--------	-------	-------

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請・区変中
	名	名	0名	1名	2名	4名	12名	0名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者 (匿名)	通い	泊まり	訪問	備考(入所日、退所日など)
ア	22	1	11	2 (訪問看護)
イ	8	0	4	9
ウ	11	0	18	9
エ	20	3	21	26
オ	8	1	39	4
カ	9	0	23	24
キ	18	0	23	10 終了:7/31
ク	7	3	7	4
ケ	9	0	22	7
コ	31	27	6	3
サ	9	2	11	10
シ	23	19	34	77
ス	27	23	9	3
セ	21	16	20	56
ソ	10	2	16	17 入院:7/27~8/12
タ	14	11	46	19
チ	14	12	12	15
ツ	9	3	28	0
テ	9	0	18	8 開始:7/4~
ト				
ナ				
ニ				
ヌ				
ネ				
ノ				
ハ				
ヒ				
フ				平均要介護度 4.42
ヘ				
平均	14.68	6.47	19.37	

4. 運営方針

事業所の目標	1. 育成計画を改善し、より良い計画にブラッシュアップする 2. 具体的な行動ができるように災害時のマニュアルを見直す 3. 職員のACPの理解を深め、実践できる 4. 他部門との一体化を強化と新規雇用で職員を確保し、登録者数を増やす
目標に向けた 具体的取組	1ー1)職員にヒアリングをし育成計画の課題を明確にして、計画に反映する 2ー1)災害時の具体的な行動を考え、マニュアルを見直し、作成する 3ー1)ACPの研修会の開催 4ー1)職員間の伝達、職員の異動、新規雇用を進める

5. 活動報告

【5月】	安全衛生委員会・管理者会、運営会議、虐待報告検討委員会、喀痰吸引等関係者会議 ACP研修会(看取りケアを通して) 誕生会 野菜の苗付
【6月】	職員全体研修会(リスクマネジメント・個人情報保護・プライバシー等) 安全衛生委員会・管理者会議 運営会議 虐待報告検討委員会 喀痰吸引等関係者会議
【7月】	安全衛生委員会・管理者会、運営会議、虐待報告検討委員会、喀痰吸引等関係者会議 腰痛予防の研修会、災害対策研修会

6. 事故・ヒヤリハット報告(7件中4件記載)

内容	【内容】経管栄養注入量のミス 手順書を確認しエンシュア1缶と白湯150mlの準備をし、眠剤薬を溶かし、本人の近くにセットした。翌日、冷蔵庫内にエンシュア半缶が残っていたことを指摘された。当該日は、来客のため注入量が朝と夕は、1缶から1.5缶に変更になっていたことを知った。 【原因】注入準備の際、気管孔からの痰の吹き出しがあり、清拭や経管栄養の準備も一緒に行っていた為、近くに置いてあった注入変更の用紙に気づけなかった。伝言や申し送りにも添付されていたが、確認を怠ってしまった。
改善策	訪問前に伝言や申し送りを確認する。 ホワイトボードに「注入変更あり」のマグネットを作り、訪問者の所に貼る。 ホワイトボードに変更用紙を貼り、訪問時に持参する。
内容	【内容】利用者の受傷、両手の爪が伸びており爪切をしていた。その際、左手第2指の皮膚を3mm弱傷つけて出血してしまった。本人はスヤスヤ眠っており覚醒することもなかった。 【対応】看護師が確認、止血後カットバン保護とした。家族は外出で迎えが夜になる為、お詫びの手紙と連絡帳に記載し、夜勤者に状況を伝えた。
改善策	・皮膚と爪の間を1本ずつ確認し、皮膚を傷つけないように切る。 ・巻き爪等切るのに難しい爪は看護師に実施してもらう。 ・爪が伸びすぎない前に出来るだけやすりで削るようにする。
内容	当該利用者が4/28下痢が続いている為、クリニックの担当看護師から水分増量の指示を受け、注入手順書を作成した。手順書を2枚印刷し、1枚は通所の注入手順書ファイルに入れた。1枚は家族に渡し、28日夕から水分増量で注入していた。5/3昼に泊り利用のため来所、通所中は、4/28 以前の手順書で注入実施していたことを、5/5に気づいた。 【対応】5/3は、210ml、5/4は240ml水分不足。5/5は、昼に気付く朝の不足分を昼と夕に分けて補足した。主治医と家族に文書で報告した。
改善策	・注入手順書の開始日付を大きく目立つようにした。 ・手順書ファイルに入っている余計な過去の手順書は破棄した。
内容	【内容】利用者の入浴後、緑茶200mlをコップに入れ提供し、その場を外れた。その後、リーダーより、当該利用者のコップに緑茶が入っていたが、緑茶禁となっていると指摘された。 【対応】次の入浴準備が迫っており、ティーサーバーに記載してある内容の確認を怠った。
改善策	腎機能低下のため緑茶禁になっていることを再確認した。 ティーサーバーに記載してある提供禁止の表示を色付けして見やすくした。

7. 地域への情報提供

・コロナ関連や、非常勤の子供の発熱等が多く、欠勤が続き、相変わらず人手不足の状況で対応している。

8. その他特記事項

特になし